

臨床研究に関する情報公開（一般向け）

名古屋大学大学院医学系研究科生体反応病理学では、九州大学大学院医学研究院形態機能病理学と合同で、病理検体を用いた研究を実施しています。本研究は厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を順守して行われます。

研究課題名：高分化型・脱分化型脂肪肉腫と骨軟骨形成性腫瘍に関する研究

施設研究代表者： 山下享子（名古屋大学大学院医学系研究科生体反応病理学）

1. 研究の背景

高分化型脂肪肉腫は、高齢者に多く発生する最も頻度の高い肉腫の一つで、ほぼ例外なく MDM2 遺伝子が増幅しています。この腫瘍は、途中で一部が脱分化型脂肪肉腫に変化し、悪性度が上昇することが知られています。高分化型脂肪肉腫や脱分化型脂肪肉腫では、ときに腫瘍内に骨や軟骨が形成されます。また傍骨性骨肉腫や骨内高分化型骨肉腫などの低悪性度骨肉腫にも MDM2 遺伝子の増幅がみられ、これらの一部は通常骨肉腫に高悪性度化（脱分化）することが知られています。こうした現象に関連して、MDM2 遺伝子増幅がみられ骨軟骨形成性を伴う軟部腫瘍については、その鑑別診断が困難で、疾患概念も統一されていません。

2. 研究の意義、目的

MDM2 はユビキチンリガーゼとしてがん抑制遺伝子産物 p53 の量的な制御をつかさどる重要なタンパク質であり、様々な分子標的薬が考案されつつあります。MDM2 遺伝子増幅腫瘍の病態を明らかにすることは、治療選択の上でも重要です。

この研究では、軟部に発生した骨軟骨形成性腫瘍について、高分化型脂肪肉腫成分を伴い MDM2 遺伝子増幅のみられる脱分化型脂肪肉腫や、MDM2 遺伝子増幅のみられない骨外性骨肉腫など、疾患概念の明瞭なカテゴリーに属する症例の解析を通して、骨軟骨形成性腫瘍と MDM2 遺伝子増幅を伴う間葉系腫瘍の特徴とその鑑別法を明らかにすること、さらには MDM2 遺伝子増幅腫瘍における脱分化現象の詳細を明らかにすることを目的としています。

3. 研究の対象

1971年7月30日より2015年10月14日までに九州大学形態機能病理学教室に登録された、あるいは名古屋大学医学部附属病院、その他の協力病院にて手術あるいは生検された、脂肪肉腫および骨軟骨形成性腫瘍、その他の骨軟部腫瘍、中胚葉性腫瘍（中皮腫など）の症例が対象となります。

4. 研究の方法

匿名化された組織標本を用いて、病理組織所見、免疫染色結果、FISH などによる遺伝子解析結果を、臨床所見とともに評価します。

5. 対象者個人情報の保護について

症例リストを作成して、各施設で症例リストの個人を特定できる情報をコード化します。コードと症例リストを連結する対応表は各施設において厳重に保管します。

6. 研究結果の公表

結果は、日本病理学会および関連学会において発表し論文発表される予定です。公表については個人を特定できないような形で行います。組織標本および診療情報の利用について希望されない場合は、その方のデータを本研究から除外して研究を行います。

7. お問い合わせ先

名古屋大学大学院医学系研究科生体反応病理学 助教 山下享子

連絡先：

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学大学院医学系研究科 生体反応病理学

TEL：052-744-2087、FAX：052-744-2091

苦情等の受付先：名古屋大学医学部総務課 TEL：052-744-1901